

J A R L

香川クラブ報

No. 415 平成29年10月15日



J A 5 Y D E

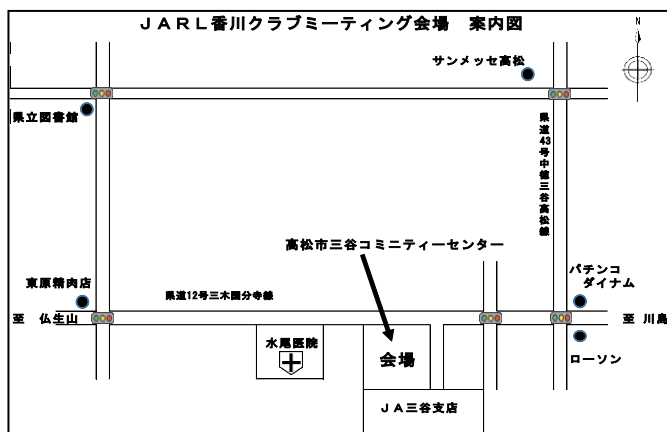
クラブミーティングのご案内

暑い夏も終わり朝晩は肌寒く感じられる季節になりました。11月には高松市震災対策総合訓練等の行事があり、香川クラブ結成70周年記念イベント等についても打合せを致したくクラブミーティングのご案内をさせていただきます。

時期的に大変ご多忙とは思いますが、多数の御出席宜しくお願い申し上げます。

記

- 日 時： 11月10日（金） 19：30～21：30頃
場 所： 三谷町 高松市三谷コミュニティセンター
議 題： 1. 高松市震災対策総合訓練
2. 香川マラソンコンテスト
3. 忘年会
4. 香川クラブ結成70周年記念イベント、その他



平成29年度高松市震災対策総合訓練

今年も高松市では下記要領で、近い将来発生が予想されている南海トラフを起因とする地震に備え、地域防災計画に基づき市民参加型の震災対策総合訓練が実施されます。当 JARL 香川クラブはこれに毎年参加しています。

記

- 1 日 時 平成29年11月26日（日）午前9時～正午まで
2 場 所 高松市牟礼地区（高松市立牟礼中学校）
3 訓練想定 11月26日午前9時、香川県下全域に強い地震が発生し、高松市内で震度6弱を記録した。このため多数の家屋が全壊し、火災発生、ため池の決壊、道路等の損壊、交通機関通信施設、電気等の施設に甚大な被害が生じ市内沿岸部に大津波警報が発令された。
4 参加団体 28機関 約1000人の予定

※ 当日は訓練番号4番でアマチュア無線通信による災害情報伝達を行う。
参加出来る方は是非訓練に参加されますようお願い致します。

モンゴル奮闘記

JH5LYW

去る8月20日から25日まで、モンゴルのウランバートルにおいて「The 11th IARU Reg3 ARDF Championships」が開催されました。

参加国は10か国、参加選手は約180名で3.5MHz帯と145MHz帯の2種目でおこなわれました。

日本からは選手30名、サポーター及び国際審判員7名の総勢37名。四国からはJG5WTP 滝井 OM(M50)、JR5PVC 坂東 OM(M21)、JJ5GVX 坂東さん(W21)と私 JH5LYW(M60)の4名で参加しました。

前回モンゴルで開催された大会(10年前)に参加した経験を持つ詫間 OM からいろいろアドバイスを貰っていたお陰で、あまりストレスなく参加することができました。

出発に先立ち、時間的なこともあり前泊し坂東 OM の提案で「あべのハルカス」の見学と夕食で素敵な夜を過ごしました。



20日(日) 出発・モンゴル入国

お昼過ぎ関空から韓国仁川を経由して、日が変わる前に宿泊施設に到着しました。ミーティングに参加し明日のスケジュールを周知され床につきました。

21日(月) 開会式・練習会

食事はグループ毎に食堂の入場制限がされ混雑なくゆっくりと出来ました。

10時から開会式が行われ、その後いろいろな歓迎のセレモニーがあり、終わったのは14時半で、その間飽きることなく次々と繰り上げられるパフォーマンスに感嘆し、今までオーストラリアや韓国の大会にも参加したことがありますが、最も盛大でした。

昼食後、練習会が宿舎周辺で行われ、競技用周波数は、3.5MHz帯も145MHz帯も日本で通常開催される周波数で、普段使用している受信機がそのまま使えたのはラッキーでした。

宿舎には日本のような風呂は無く、出の悪いシャワーのみ。トイレは水洗式ですが使



用済みの紙は流さず、設置されているごみ箱に捨てるというものでした。

また、男女の区分はなく個室の入口ドアにそれぞれ男女の絵が描かれているので優先的にそちらを利用するというものでした。

22 日（火） 競技一日目 145MHz 帯

バス 6 台に分乗して競技会場に移動です。

警察のパトロールカーが先導して、先行く車を蹴散らしながらノンストップで走ります。大きな交差点では警察官が予め交通遮断して我々を優先です。

が、日本では考えられない出来事のまずその一「お客を乗せているにもかかわらず、途中で給油」燃料タンクが大きいから、かなりの時間ロス。

その二「信じられないような水たまりが道路のあちこちにあり、対向車があっても平気で反対車線でも走る」



その三「雨がかなり降っているのに傘をささない。傘をさしているのは観光客のみ」

モンゴルの小話に、観光客が「傘を貸してくれませんか」

モンゴル人「かさない」

観光客は???

モンゴルの人々にとって雨は貴重なもの。

だから、傘は持っていない。

傘を貸さないでなく、傘はありませんとのことだそうです。

そうこうしながら会場近くまで来ると、バス

がスリップしてひどい時は 1 m 以上横滑り。

とうとう諦めて「みんな降りて集合場所まで歩いて行け」と指示があり、雨の中深くはないが橋もない川を横切り 1km あまりを徒歩での移動でした。

そのうちパトロールカーが移動を試みるのですがスリップして進まず、何度も引き返してはチャレンジして、ついに草原を乗り切った時は移動していた選手団から拍手と喝采が沸き起こりました。

選手待機場所に屋根付きの建物があつたものの壁はなく吹きさらし状態。時折激しい雨で体感温度はグングン下がります。

第 1 組スタート時間が来ても何のインフォメーションもなく、やっと呼び出されたのは 11 時 40 分。「第 1 組スタートは 12 時」とのことです。何と 2 時間半遅れ。

私は 29 組中で最終組。やっとスタートしたのは 14 時 50 分でした。

待つ間、持参していたクッキーなどで腹ごしらえをするという有様でした。

競技中も断続的に雨に降られ、ゴール後は寒いのですが上着も着替えも届いていないという有様。とりあえず用意されていた昼食を取りましたが、別に用意されていたカップ麺が暖かく、それが一番美味しかったです。

所要タイムは 50 分 29 秒、何とか M60 クラス 3 位に入賞することができました。



23 日（水） 小観光・145MHz 帯表彰式

ただの観光にも関わらずパトカーの先導。と、またしてもバスが途中で給油。
今日の驚きは何といっても、大震災の後かと疑う状況です。

マンホールの蓋が無かったり隆起して持ち上がっている（周りの土がなくなっている
のかも）。



電柱なんか 15 度前後の傾きは当たり前。電気の分岐用配電盤が人の身長ほどのところに何の防護柵もなく平然と取り付けられており感電事故なんか無いのかと心配になりました。また、車が半分以上水没するような水溜まりを平然と乗用車が突き進む光景に皆目を丸くしました。

まず、モンゴルの歴史民俗館のようなところを見学しました。

展望台に上ってチンギスハーンの像をバックに写真を撮ったり、どちらを向いても見渡す限りの草原に感動を覚えました。

レストランでバイキング方式の食事を取り、近くのデパートで買い物をして過ごし帰路につきました。

19 時頃から前日の 145MHz 帯の表彰式があり、終わったのは 21 時も過ぎていました。

会場から出るとスコッチで祝福され、空には花火が打ち上げられ素晴らしいものでした。

24 日（木） 競技 2 日目 3.5MHz 帯・表彰式・交流会

競技は会場近くで開催されましたが、やはり時折雨が降り外気温は 12 度とのことです。また、遅れるのかと思いきや「今日は 10 分早めます」とのこと。

時間はルーズと聞いていましたが、毎日驚きの連続です。

今日は第 4 組のスタートです。

第 3 TX では審判が草むらの中で寝ており危うく踏むところでした。

寝とぼけたのか、飛び起きてビックリした顔が面白く、笑いを堪えながら手を振ってその場を離れました。

途中、急こう配の登りの上、石がゴロゴロしている岩場があり、標高が高いせいもあり息も絶え絶えになりながらも慎重に乗り越え所定 TX をゲット。所要時間は 46 分 24 秒でゴールした時は、まだ誰もゴールした選手は無く、ゴールスタッフに祝福されました。

時間的にはまだ半分もスタートしていない状況ですので、サポーターや着替えなどは届いてなく寒さに耐えながら、疎らにゴールする選手を迎えるだけです。

お陰で、風邪をひいたようで帰国後も喉がイガイガする状態でした。



成績はまたもや3位。145MHz帯に比べて少し悔しい思いが過りました。

表彰式では、145MHz帯に比べ全体的に日本選手の成績は悪かったと思います。

最後の行事である交流会も、それぞれの国の民族衣装で着飾った選手もいたりして賑やかなものでした。

交流会終了後は一室に集まって二次会です。私は途中で抜けましたが、かなり遅くまで盛り上がり過ぎて騒いでいたらしく、誘導などで常駐してくれていた警察官に注意を受けたそうです。



25日（金） 出国・帰路

最後の食事でも済ませ 07:30 に宿舍を出発。呆れるほどの荒れた道路でバスは右に左に大草原をのんびりと眺めながら空港に到着しました。

出国ゲートに向かうと入口の係官に「搭乗券を見せろ」と言われ、我々はOKでしたが、もう一グループは「外で待機せよ」とのこと。

どうも、仁川行きの飛行機会社が違っていているようで、韓国の航空会社はOKで中国の航空会社の飛行機はギリギリまでゲートに入れないみたいでした。

なお、時間的に先に飛び立つのは中国機でしたが、どこでも問題になっているのでしょうか？

M40 クラスで参加し今回の旅行の手配やリードしてくれた奈良育英高等学校のJF3KRL 菊一先生のお陰で、出国までの間ビジネスラウンジでワインを飲みながらのんびりと時間いっぱいまで過ごしました。

仁川を経由して 22 時前に無事関空に到着し、菊一先生グループと別れ、後泊のためホテルに入りました。



帰りに、これも坂東 OM の提案により水陸両用車で大阪を巡る「ダックツアー」に参加し今回の旅は事故もなく無事終了しました。

往路では、多分モンゴル国を訪れるのはこれが最初で最後と思っていましたが、帰路飛行機は飛び立ち、窓から雄大な草原を見ていると「もう少しのんびりと過ごしたかったなあ」と後ろ髪をひかれる思いでした。また、数年後に開催されるであ

ろうモンゴルでの大会にチャンスがあれば参加したいものです。

表彰式の写真



関西地方A R D F 競技大会

3.5MHz スプリント部門（宇治市立山城総合運動公園）平成 29 年 9 月 24 日（日）

クラス	成績	コールサイン	所要タイム	獲得 TX
M 6 0	1 位	J H 5 L Y W	44 分 21 秒	10 個 (12 個)
M 7 0	1 位	J A 5 U V T	53 分 49 秒	2 個

（スプリントの T X 総数はスペクテータ・ビーコン含む 12 個）

晴天の中、宇治平等院隣にある公園で開催されました。

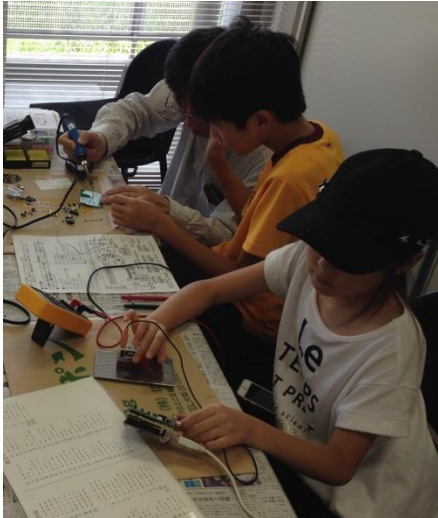
国内で初めて公式競技としての“スプリント競技大会”が開催され楽しみました。

JH5LYW 局は 10 組中 7 組のスタートに関わらず、設置されている T X を全てゲットし参加選手中トップでゴールし、ゴール審判団が驚かれました。

製作技術講習会応援記

JG5JXW

去年は開催されず1年空いての製作技術講習会に応援参加して来ました。今年のお題は「Arduino UNO のシールドとして動作するエレクトリックキーヤー」でパドルを使って打ち込んだりメモリーを呼び出したりパソコンから信号を送ったりできるスグレモノ。しかしなぜ「応援参加」なのかと言うと第一は参加費が払えない。第二はCW修行

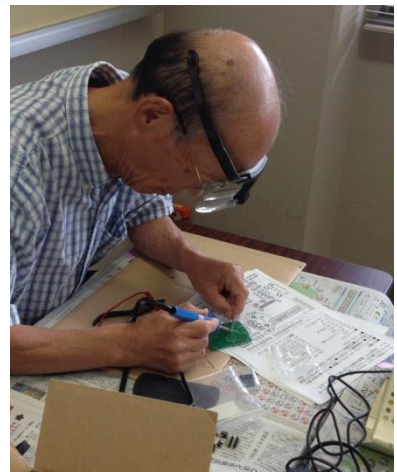


中だから楽をしすぎるのはよくない！といった理由からです。しかし打ち込んだ信号が液晶画面に表示されるのは絶賛練習中のお友達にはモッテコイ！と思い2名のお友達に紹介しましたら速攻で応募されていました。紹介した方がうまく作れるのかどうか心配でしたし、後日質問されても心配ないようにとJA5TOP 平賀さんをお願いしお手伝いという形で参加できることになりました。開始時間の1時間前に到着すると駐車場が大混雑しており何事だろうかと思えば「岡田地区敬老会」でやっとの思いで車を止め会場に入るともう既に準備も終わり半数近くの参加者も到着している状況でした。耐震工事のため当初予定した会場が変更となり手狭な部屋になっていたのも、邪魔ならば外で待つしかないという覚悟を決めていましたが、欠席者3名とコマー

シャルの都合で遅れてくる方が1名おりなんとか会場内にとどまる事が出来ました。森國支部長のご挨拶の後、講師の中茂さんの講習が始まりました。中には小学生の参加者に付き添いの小さい女の子も一緒に来ていて、この女の子が和文CWでトンツートンツとデモ機を使って遊んでいました。心の中で「すげー！完敗や〜」と叫びながら近くの方々の工作のサポートをさせてもらいました。私を含め視力が落ち込んでいる人が大半で、皆さんそれぞれに工夫している姿に微笑みも浮かんできます。コンデンサの容量が見えず四苦八苦、抵抗の色帯が見えないと言った基本的な事から部品の取り付けが上下逆だったりなど、かなり致命的なミスを犯す方もチラホラと有りながらも最終的には皆さん完成し、午後から参加した方は猛スピードで組み上げ無事に完成いたしました。片付けしつつ残っていた方のお話を聞きながら過ごす時間も初めての体験でしたので新鮮でした。

後日談ですがスピードを早くすると短点や長点が1つ余分についてくるという事象があると聞き「スケッチ」と呼ばれているプログラムを解読し応急処置的ながら修正し無事に正常動作するようになっていました。次回は講習会のお題にもよりますが自身で参加するか、またお手伝いか分かりませんが何らかの形で関わらせてもらいたいです。

和文も覚えなきゃ！？

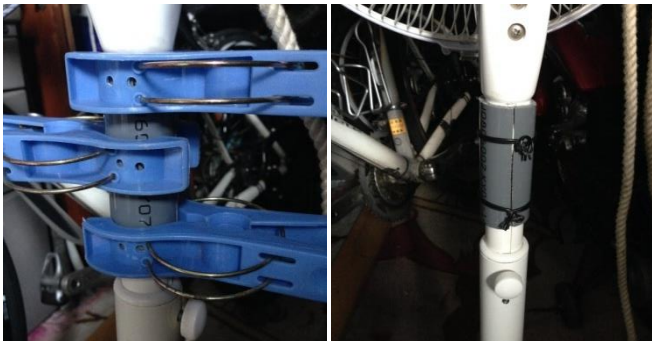


参加者 16 名（全日本 ARDF 競技大会打合のため急遽 3 名参加できず欠席）

扇風機の首折れる！

JG5JXW

お盆も終わりがけた深夜（早朝）寝ていると「ガサッ」「ガサッ」と音がする。暗い中音のする方を見ても何も無さそうだが、扇風機の様子がおかしい。電気をつけたらなんと！首が折れてそれでも首をふろうとしてあがいている扇風機がそこにあった。頭のなかには「????」が一杯。翌日仕事から戻り状況を確認すると、どうやら高さ調節ネジを締めすぎてヒビが入っていた所に、長年の振動によりヒビが大きくなりポッキリとってしまったようでした。首部分はモーターが有り結構重いので補強も難しそう。ちょうど物置に塩ビパイプの太いもの（内径 25mm）が有ったが、扇風機の首の直径は 27mm。ちょっと足りんけど補強には使えるだろうと適当に切ってみた。このままでは使えないので、縦に半分に割って挟み込む作戦。まずは、いわゆる傷口にボンドを塗って止めてみよう、と、頭部を物置の梁から吊るして重量を逃しつつボンドで固定してみる。いい感じで固定できそうだったので養生テープで止めた後、さっき切った塩ビパイプで挟んで大きな洗濯ば



みで固定して乾燥待ち。扇風機が使えない間、予備の扇風機を使っていたけどもうるさいばかりでちっとも涼しくないので、夜はとても寝苦しかったが後一日の辛抱だ。そしてまた仕事から戻り接着状況を確認するといい感じで着いている。とは言えボンドだけでは心許ないので、針金を巻いて補強しエアコンの配管を止めるテープで見た目を少し良くし完成！果たしていつまで持ってくれるか？それでも追加の費用をかけずに直せたのでとても満足でした。



2017 年度香川マラソンコンテスト実施要領

J A R L 香川県支部では香川県内局の親睦を図る為、次の要領で香川マラソンコンテストを開催します。

〈期間〉

平成 29 年 12 月 1 日 (00:00)～12 月 15 日 (24:00)

〈参加部門〉

- ①個人局＝シングルバンド・シングルモードの部
電信……135KHz～10GHz 帯
電話……3.5MHz～10GHz 帯
- ②個人局＝マルチバンド・マルチモードの部
マルチバンド・電信の部
- ③個人局＝RTTY, ATV, FAX, SSTV、パケットの各部・マルチバンド
- ④社団局＝マルチバンド・マルチモード
- ⑤ニューカマー局＝マルチバンド・マルチモードの部(12 月 1 日現在で開局 5 年未満の局)
- ⑥SWL＝マルチバンド・マルチモード
- ⑦その他 3.8, 10, 18, 24MHz 帯は含まない

〈資 格〉 香川県内にて運用するアマチュア局及び

SWL(コールサインを持っている局の SWL 部門への参加は認めません)

〈交 信〉

- ①呼出し……電 話 「CQ 香川マラソンコンテスト」 電 信 「CQ TEST」
- ②コンテストナンバー…「RS(T)+発信市町ナンバー(または市町名)(8 市、9 町)」

高 松 市	= 3 6 0 1	宇 多 津 町	= 3 6 0 0 1 C
丸 亀 市	= 3 6 0 2	綾 川 町	= 3 6 0 0 1 G
坂 出 市	= 3 6 0 3	直 島 町	= 3 6 0 0 3 C
善 通 寺 市	= 3 6 0 4	三 木 町	= 3 6 0 0 4 B
観 音 寺 市	= 3 6 0 5	土 庄 町	= 3 6 0 0 5 C
さ ぬ き 市	= 3 6 0 6	小 豆 島 町	= 3 6 0 0 5 D
東かがわ市	= 3 6 0 7	琴 平 町	= 3 6 0 0 6 A
三 豊 市	= 3 6 0 8	多 度 津 町	= 3 6 0 0 6 B
		まんのう町	= 3 6 0 0 6 F
- ③香川県内局間の QSO のみ有効

〈注意事項〉

- ①同一局との交信は同一バンド内では 1 交信のみ
- ②クロスバンドの交信は認めない
- ③パケット通信によるナンバー交換はチャットで行いデジピートによる交信は認めない
- ④2 波以上の電波の同時発射はすべて禁止する
- ⑤総務省告示のバンド使用区別を守りレピータ及びメインでのナンバー交換は絶対にしないこと
- ⑥電波法を守ること

〈得点、マルチプライヤー〉

- ①得点 完全な1交信を1得点とする
- ②マルチプライヤー
各バンドで交信した異なる市町の数
- ③日数マルチプライヤー
交信日数（ログ提出部門の日数で最高は15日）
- ④総得点…（各バンドで得た得点の和）×（各バンドで得たマルチの和＋日数マルチ）＝総得点

〈ログの記入方法〉

- ①ログ及びサマリーシートはJARL制定（A4）のもの、または同様式のものを使用し、バンド別に整理し交信順に記入する
- ②サマリーシートはログの上部に付けホッチキスで止める（複数の局を同封する場合は1局ごとに綴る）

〈失 格〉

- ①電波法またはこれに基づく命令及びコンテスト規約に違反したとき
- ②提出書類の不備
- ③虚偽の報告をしたもの

〈締切日・提出先〉

- ・平成30年1月5日（必着）
769-1101 三豊市詫間町詫間 4673-1 加藤 秀和様方
香川マラソンコンテスト係
- ・電子ログ（E-mail）による提出の場合、所定の様式（JARL Web を参照）で作成したデータをテキストメール（添付はダメ）として、件名欄にコールサインを記入して提出先アドレス kagawa@jarl.com に送信してください。到達確認の返信メールを送ります。

〈発 表〉

- ・平成30年2月発行のJARL 香川県支部報

〈入 賞〉

- ・入賞は各部門ごとに参加者数に応じて

〈表 彰〉

- ・平成29年度のハムフェスティバル in 香川にて行います。
（平成30年3月18日 丸亀市『アイレックス』で開催予定）
- ・当日出席出来ない方は代理を依頼するかJH5GTO渡辺（087-886-1198）まで引き取り方法について連絡くださいますようお願いいたします。

★日数マルチ8日でFBな賞品

今年もコンテスト参加者の内「日数マルチ8日以上ログ提出者」には、抽選でFBな賞品が当たります。

- ★当コンテストに関する一切の権限は、JARL 香川県支部コンテスト委員会が有します。
なお、ルール等の問合せは「JA5ARW」支部長まで。

※FBな賞品が抽選で当たる日数が10日から8日に変更されました。
皆さん奮って参加しましょう。

クラブ報の原稿依頼及び送付先

身近な出来事、旅行記、自身のハムライフ、掲載要望などのジャンルは問いません。
原稿サイズ：B5サイズ 出来ればWordで作成しメール、電子メールが無い場合はfaxか郵送。

送 付 先：E-mail

Fax

郵 送 先：〒761-

★★★ 新入会員募集中 ★★★

J A R L 香川クラブでは新会員を募集しています。

今年はクラブ結成69年(1948年10月結成)になります。

そこで、更なる飛躍と新たな歴史を築いていかなければなりません。
クラブに新風を吹き込むと同時に、活性化のためにも新入会員の募集にご協力ください。

*お知らせ

J A R L 香川クラブでは、会員の実態を把握するため、免許状記載事項に変更があったり、新たに無線局の免許状を取得された方は、その都度、お知らせくださいますようお願いします。

将来のインターネットサービスに対応して、現在「電子メールアドレス」を取得している方は、差し支えなければ連絡下さい。

会員の皆様には会費納入につきまして、ご協力有難うございます。

J A R L 香川クラブ報

発行責任者	J H 5 L Y W	三 好 伸 幸
編 集 者	J A 5 T F J	横 田 寿 夫
	J A 5 T O P	平 賀 正 明
	J I 5 V U Z	市 原 義 博
	J G 5 J X W	坂 井 進 史